

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026年 3月 31日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 [Redacted]

所在地 [Redacted]

評価機関名 株式会社にはんの福祉ネット

認証評価機関番号 [Redacted]

電話番号 [Redacted]

代表者氏名 [Redacted]

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	[Redacted]	経営	[Redacted]
	②	[Redacted]	福祉	[Redacted]
	③	[Redacted]	福祉、経営	[Redacted]
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	白金台児童館			
事業所連絡先	〒	108-0071		
	所在地	東京都港区白金台4丁目8番5号		
	TEL	03-3444-1899		
事業所代表者氏名	桑原 敦			
契約日	2025年 6月 18日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 11月 4日			
利用者調査結果報告日	2025年 12月 8日			
自己評価の調査票配付日	2025年 11月 4日			
自己評価結果報告日	2025年 12月 8日			
訪問調査日	2025年 12月 15日			
評価合議日	2025年 12月 15日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査では、利用者の希望や状況に応じて、アンケート調査を実施した。事業評価については、帳票配付時に内容や記入の流れを説明した動画を提供し、第三者評価の理解と記入方法を周知徹底した。訪問調査については、感染症対策を徹底しつつ、効率良く実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026年 3月 31日

事業者代表者氏名 館長 桑原 敦

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と丁寧に向き合い信頼される施設を目指すこと</li> <li>・子どもの主体的な活動を支援し、自己実現につながる様々な体験ができる場とすること</li> <li>・利用者が安全で安心できる施設運営を行うこと</li> <li>・地域や近隣施設と連携し、児童館活動を展開すること</li> <li>・課題解決に向けて情報を共有し、職員が協力して取り組むこと</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に区民の視点で考え、区民を第一に行動する職員</li> <li>・様々な考え、個性、価値観を持った職員同士がお互いを尊重し助け合いながら心身ともに健康でいきいきと働く職員</li> <li>・多様な視点を取り入れながら、自律的に責任を持って働き、新たな価値創出に努める職員</li> <li>・年齢や経験などを問わず、職層に応じた目標を定め、新しいことに積極果敢に挑戦する職員</li> <li>・高い規律性・倫理観のもと、誠実に責任感を持って行動できる、区民から信頼される職員</li> </ul>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利条約を念頭に、常に「子どもにとっての最善」を考えていること</li> <li>・利用者のために何ができるか、何を選択するべきかを常に意識していること</li> <li>・自身が子どもや保護者の生活の一部となっているという自覚をもっていること</li> <li>・新しい取り組みに積極的にチャレンジすること</li> <li>・組織の一員として、良好な職場環境づくりに努力できること</li> </ul>

調査対象	調査時の全利用者
調査方法	アンケートによる調査

利用者総数 64

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	64		64
共通評価項目による調査の有効回答者数	38		38
利用者総数に対する回答者割合(%)	59.4	0.0	59.4

### 利用者調査全体のコメント

<アンケートの回答方法>  
「本人」50%、「本人が家族と話し合いながら」22%、「家族が本人の気持ちを推察して」5%、「その他」23%t

<総合的な満足度>  
「満足」68%、「まあまあ満足」26%、計94%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>  
・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

### 利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	33	5	0	0
回答者の87%が「はい」と回答した。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	28	8	1	1
回答者の74%が「はい」と回答した。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	30	6	1	1
回答者の79%が「はい」と回答した。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	22	8	2	6
回答者の58%が「はい」と回答した。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	25	7	3	3
回答者の66%が「はい」と回答した。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	24	11	3	0
回答者の63%が「はい」と回答した。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	30	6	0	2
回答者の79%が「はい」と回答した。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	33	2	0	3
回答者の87%が「はい」と回答した。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	32	6	0	0
回答者の84%が「はい」と回答した。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	29	6	1	2
回答者の76%が「はい」と回答した。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	27	4	2	5
回答者の71%が「はい」と回答した。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	27	6	1	4
回答者の71%が「はい」と回答した。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	15	11	5	7
回答者の39%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	職員や保護者に向けて児童館の理念などの理解を深めている 職員打ち合わせ(週1回)などで児童館としての理念・ビジョンや基本方針を館長から職員に伝え、全体で意見交換をしたうえで理解を深めている。「自分たちで決めた」という意識を持てるように、必ず全体会の中での協議を経て決定している。掲示板や事務室内への掲示により、目に触れる機会を多く作り、意識付けをしている。保護者に対しては、児童館内への掲示や学童クラブ保護者会での説明している。また地域に向けては地域懇談会にて児童館が目指していることを伝えている。	
	館長は自らの役割や責任を示し、理念の達成に向けてリーダーシップを発揮している 児童施設等運営マニュアルの中で館長の役割を定めており、職員に共有している。また、決定した組織目標及び年間計画にもとづき、館長を含めた各自の役割分担を定め、全体会の中でその役割と責任について話している。目標及び年間計画に基づいた役割分担や職員各自が定めた目標に対して自己申告書を作成し、年3回の個別ヒアリングの中でその検証と目標設定の修正を行っている。また、日々の運営や事業実施において事業所が目指していることの実現や自らの役割についてアドバイスしている。	
	重要事項の検討・決定手順を定め、職員や保護者へ経緯など共有している 事業の進め方や手順はマニュアルに定め、新たな課題や提案は、提案者が職員打ち合わせで提案内容や検討課題を提示している。また、各自で事前に検討課題を理解したうえで、会議で検討・決定する流れであることを周知している。区の決定事項が伝えられた際には、職員打ち合わせで、決定に至る経過や根拠を含めて内容を周知し、必要に応じて根拠資料を回覧している。利用者に対しては、決定の内容により、必要なのは学童クラブ保護者会などで丁寧に伝えている。その際、決定内容とその経緯が理解しやすいように説明文や資料を提示している。	

カテゴリー2	
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行
サブカテゴリー1(2-1)	
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>6/6</b>	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	
評点(○○○○○○)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している
○非該当	
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している
○非該当	
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している
○非該当	
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している
○非該当	
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している
○非該当	
サブカテゴリー2(2-2)	
実践的な計画策定に取り組んでいる	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している	
評点(○○○)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している
○非該当	
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している
○非該当	
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている
○非該当	
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる	
評点(○○)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している
○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
○非該当	
カテゴリー2の講評	
<p>利用者の意向やニーズ、職員の運営に対する意向を把握し、課題を抽出している</p> <p>利用者の意向についてニーズを把握するために、保護者会及び個人面談で聞き取りを行い情報収集している。運営に対する職員の意向を把握・検討するために、職員打ち合わせでの意見交換や事業検討、自己申告書などにより職員から意見を聴取している。また、課題については、利用者、職員、地域から聴取した情報から職員打ち合わせで抽出を行っている。</p> <p>地域の福祉のニーズや福祉全体の動向について情報収集し把握に努めている</p> <p>地域の福祉の現状については、高輪地区運営会議、児童館長会、幼稚園運営協議会等に参加しニーズの把握に努めている。また、小学校のPTA、町会長、児童民生委員など地域の代表者が出席している地域懇談会を開催し情報収集してニーズを把握している。各研修への参加による情報収集や子ども家庭庁、東京都からの文書を回覧し、福祉事業全体の動向について情報収集し、課題やニーズの把握に努めている。</p> <p>事業計画を見直し、地域や利用者の状況に柔軟に対応している</p>	

港区基本計画、実施計画、地域保健福祉計画にもとづき、地域の児童館として状況や環境を把握し、年間計画や組織目標を策定している。事業計画を見直し、地域や利用者の状況に柔軟に対応している。港区の現状については、児童館長会で共有されており、支所運営会議で情報が発信されている。また、地域懇談会を開催し、地域の一員として地域関係者のネットワークづくりにも取り組んでいる。

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリ-3の講評

**社会人及び福祉サービスに従事する者として守るべき法などを全職員に周知している**

港区職員ハンドブックの回覧やあったかマナーみなど(港区職員の接遇マニュアル)を活用して周知している。また、区の悉皆研修として、接遇や危機管理、不適正な対応の防止について全職員が受講している。港区児童館長会主催で行動規範について検証する機会を作り、研修の主催をしている。職員の参加を促し、その内容について全職員が関わりOJTを行っている。

**利用者の意向を把握し、苦情解決制度や相談窓口の周知している**

児童館への意見は「ご意見箱」を常設して意見を言いやすいようにしている。その他にも子ども若者支援部や管理課などの相談窓口があることを「あなたの声を聞かせてください」のポスターなどで周知している。毎週こども会議担当者が、内容を確認して共有をおこない、必要に応じて職員会議の中で協議し、こども会議でこどもたちと一緒に考えて対応をしている。

**地域のニーズに基づき事業所の機能や専門性を活かした地域貢献に努めている**

高輪地区の児童館として地域行事の地域運動会、PTA夏祭りなどに積極的に参加しているほか、協働推進課や区民課、保健所等の子育てイベントにも協力している。また、高輪地区運営会議、児童館長会、小学校いじめ対策委員会、幼稚園運営協議会等の出席や地域懇談会を開催するなど地域のネットワークにも積極的に参画している。

カテゴリー4	
4	リスクマネジメント
サブカテゴリー1(4-1)	
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	
評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている
○非該当	
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている
○非該当	
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している
○非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる
○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる
○非該当	
サブカテゴリー2(4-2)	
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	
評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている
○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している
○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている
○非該当	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している
○非該当	
カテゴリー4の講評	
<p>様々なリスクを検討し、各マニュアルを作成して対策を行っている</p> <p>事故や感染症、侵入、災害、経営環境の変化などのリスクについて、常に検討し対応については各マニュアルを作成し、対策を講じている。様々なリスクの内容や規模に応じて優先順位を明確にしている。事象が発生した場合には「事件・事故連絡票」により、速やかに詳細経過報告とその内容を共有して要因や対応を検討・分析して再発防止に努め、その内容を全員で共有し、関係各部署にも報告する体制を整えている。</p> <p>各種訓練の実施や万が一に備えてヒヤリハットなどを活用し予防対策を講じている</p> <p>事故、感染症、侵入、災害などに対応する訓練を実施し、万が一に備えている。また、感染症対策として消毒を毎日実施するなど、マニュアルに沿った子どもの安全を守るために日々努めている。ヒヤリハットについては、気づいたことを適宜情報共有して対応策を検討し、予防対策や再発防止に努めている。</p> <p>情報セキュリティ関係の職員教育と適切な情報漏洩対策を講じている</p> <p>情報セキュリティや個人情報保護についての研修を全ての職員が受講している。また、実習生やボランティアにも文書を渡し、内容の確認を行っている。各種情報は事務室内の保管場所に整理し、閲覧しやすいように表示や分類に配慮している。重要かつ機密の情報については必ず鍵のかかる保管庫で保管している。PCの管理については部署ごとにアクセス権限を設けており、職員しかアクセスできない設定をしている。</p>	

5 職員と組織の能力向上		サブカテゴリ-5	
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
--	--	---------------------------

カテゴリ-5の講評

区の明確な基準による採用や人員の配置し、より良い人材構成に努めている

人材の確保として、常勤職員と会計年度任用職員区分Aについては、区として募集と採用を行い、配属について港区人事課が決定している。会計年度任用職員区分Bについては、事業所で人材を探し区の管理課が決定している。異動および配置は区の人事課が決定している。児童館の現状や職員の育成状況について詳細に管理課を通じて人事課に伝え、より良い人材構成に努めている。

本人の伸ばしたい能力や求められる能力を考慮して研修計画を立てています

各自で自己申告書を作成し、ヒアリングを行っている。本人の伸ばしたい能力を相互確認したうえで育成計画を立てている。主に区や館長会が職層別研修と実務研修、悉皆研修を行い、それぞれ求められる能力や実務に関する知識、意識、技術を習得している。年間計画の中で、各自が受け持つ役割や担当項目を決め、全体に共有をして振り返りや見直している。各自の自己申告書により自身の役割に則った目標を立て、定期的に振り返りしている。振り返りの際は、館長と課長ヒアリングを経て目標や進捗や方向性を相互で確認している。

良好な人間関係の構築により職員の意欲と働きがいの向上に取り組んでいる

職員間の良好な人間関係の構築のために、それぞれの週間業務を共有し、業務の見える化を図ったうえで、相互協力しやすい環境づくりに努めている。そのもとで、職員の要望を自己申告書等により聞きながら、職員と共に働きやすい職場づくりに取り組み、意欲と働きがいの向上が図れるように努めている。

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
カテゴリー7	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<b>評価項目1</b> 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
<b>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</b> 事業所では大規模改修工事を運営しながら進められており、「改修工事中の円滑な施設運営と子どもの居場所の確保」を目標に掲げた。取り組みとしては、区の管理課や工事関係者と連携を図り、職員の情報共有を徹底することから始めた。遊びスペースの大幅な縮小や建物内の別スペースへの移動など大きな変化がある中で、事前に子どもたちが楽しく生活できるよう遊び方や過ごし方を設定し、準備を行った。また、保護者会や工事説明会を実施し、保護者への説明も都度行った。遊び場が縮小した際には、近隣の公園、他学童クラブ、区民協働スペースなどを関係部署と調整しながら利用した。その結果、工事中の環境の中でも比較的満足できる活動ができた。また、移動についても比較的円滑に作業を進めることができた。引き続き、関係機関と連携を図りながら安心安全な施設運営に努め、来年度の児童館再開に向けて新しい事業計画の策定に取り組んでいく方針である。	
目標の設定と取り組み	<input type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<b>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</b> 大規模改修工事を行いながら育成支援を行うにあたっては、子どもの安全確保と制限された環境下での「生活の場」としての質をどう維持するかが鍵となる。特に、工事関係者との連携は必要不可欠であり、そこで得た情報から「生活の場」をどうするか検討が始まる。また、職員もこの限られた環境下でいかにして子どもの主体的な遊びや生活を支える工夫をしていくか検討していくことが重要である。これらの課題に対して職員間での情報共有を密にして遊びや生活を支える工夫を行い、子どもが満足できる活動ができたことは、一定の成果と言える。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

大規模改修工事を控え運営上の様々な課題について、解決に向けて情報を共有し、職員で協力して取り組んでいく必要があるため、「活発な意見交換と積極的な事業の実施」を目標とした。取り組みとしては、組織運営や事業について一部の職員で決定することがないように、必ず担当者間で検討したうえで定例の職員打ち合わせで意見交換を行った。この担当者の打ち合わせの時間を増やしたうえで、全体で情報共有ができるように定例の職員打ち合わせを行った。その結果、週ごとに決まった内容や進行が定着し、情報共有や全体での検討・決定していく意識も浸透した。今後はこの取り組みを継続しながら、情報共有や意見交換によるOJTの機会を増やし、子どもの対応や職員の能力向上につなげていく方針である。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

「活発な意見交換と積極的な事業の実施」は、組織の成長と生産性向上に不可欠な要素であり、特に「風通しの良い職場」においてこの循環が生まれる。全職員が事業運営の当事者として意識ができるように組織的な仕組みをつくったことは、組織の主体性・適応力・競争力を高めるために極めて重要な取り組みである。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>利用希望者に事業所の具体的な取り組み内容を分かりやすい表現で伝えている</p> <p>事業所の情報は行政のホームページや子育て情報支援サイト、東京都福祉局の「ふくむすび」からも得られるようになっている。毎月児童館だよりを発行し学校を通じて配布しているほか、行政や子ども家庭支援センター、保健所、近隣施設等に常備している。併せて、学童クラブの情報をアプリで配信すると共に定期的に学童クラブだよりを発行している。児童館だよりの表記は子どもが読んでも理解出来るよう平易な表現で、漢字にはルビをふっている。月の予定はカレンダーにして定期的な活動はマークで表示して分かりやすさに配慮している。</p> <p>地域の関係機関と連携を図り、子どもや保護者の「知りたい」という思いに応えている</p> <p>館長は毎月開催される児童館長会に参加し、行政からの連絡や地域の動向、児童館が抱える課題検討やマニュアル改定などに取り組んでいる。学校運営協議会にも参加し、近隣幼稚園とも連携している。問い合わせや見学希望には個別に日程調整して対応している。学童クラブ利用希望なのか児童館利用希望なのかに合わせてお便りやリーフレット、入会案内を渡している。定員や生活の流れ、好きなあそびを中心に、可能な限り子どもの要望に添える環境がある事を伝えている。繁忙期の見学や面談希望については予定を立てて実施している。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>サービス内容や基本的なルールを丁寧に説明し、提供している支援の理解につなげている</p> <p>学童クラブ入会希望者は1、2月に申し込み手続きをして行政による利用の可否選考の結果を待ち、2月下旬に利用承認通知書により利用が決定している。利用承認通知と共に保護者向けの入会説明会開催の案内を送付している。説明会では1日の流れ、行事、持ち物、育成料、変更・退会、休業日などを説明し、必要に応じて個別面談を実施している。児童票と生活状況調査書に子どもや保護者の状況などを記載して4月1日までの提出をお願いしている。個人情報の取り扱いを確認し、写真掲載に関する同意書を得て子どもの写真を撮影・活用している。</p> <p>子どもの状況を詳細に把握し丁寧な関わりと保護者連携で安心な利用に働きかけている</p> <p>子どもの状況は利用開始時に提出していただく児童票で家族状況、利用予定日・時間、帰宅方法などを、生活状況調査書で子どもの心身状況、あそび、生活習慣、コミュニケーションなど、ほか個別面談内容などで把握している。新1年生や新規登録児童へは利用開始直後の不安に配慮し、初日の来所は保護者の同伴をお願いしている。年上児童の案内で児童館ツアーを企画し、あそびや職員を紹介し、春休み中は特に様子を観察し、保護者は連絡アプリで子どもの姿を詳細に伝えている。</p> <p>個々の子ども集団の中で心地良い居場所をつくり、連続した関わりを支援している</p> <p>配慮が必要な子どもは現在数名在籍しており、学校との情報共有、および年2回の巡回指導により支援方法の助言を受けて検討し、環境を整備しながら担当職員を配置して関わっている。必要に応じて当該児童が卒園した園へ連絡して情報を共有している。学童クラブは年度ごとの申し込みとなっており、年度末にはお別れ遠足等を開催している。館長はサービス終了後も子どもと保護者の安心できる居場所として事業所(児童館)を活用してほしいと願っている。学童クラブの変更時には必要に応じて施設間で情報を共有するなど連携を図っている。</p>		

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	9/10
3	個別状況の記録と計画策定		
<b>評価項目1</b> 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		<b>評点(〇〇〇●)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している		○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている		○非該当
○あり ●なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している		○非該当
<b>評価項目2</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している		○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している		○非該当
<b>評価項目3</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている		○非該当
<b>サブカテゴリ-3の講評</b>			
<b>組織の目標を掲げ、目の前の子どもに必要な支援を検討して提供している</b> 地域の子どもや保護者が安心して利用できる施設となるよう、利用者のニーズや社会的変化を適格にとらえ、職員それぞれがアイデアを出し合い、共有しながら、主体的に考えて行動している。学童クラブの年間目標を立て、日々の対応や指導にあたっており、個別計画は作成していない。支援が必要な子どもについては巡回指導の助言や報告をもとに状況を確認した上で見直しを持ち関わっており、今後は個別計画作成の必要性を視野に入れている。入会時に学童クラブの取り組みなど保護者に説明し、利用開始後は面談や送迎時に相互理解を図っている。			
<b>子どもや保護者の情報を職員が共有し、子どもへの適切な関わり方を検討している</b> 子どもの情報は児童票や生活状況確認書、面談記録、ケース記録、巡回指導資料などに記録され職員間で共有している。子どもの人間関係などの悩みは職員がいつでも寄り添い、個別に話を聞く時間を設け、ケース記録に残している。学童クラブの入会時、個人面談の際の情報共有、巡回指導などの内容は職員打合せで共有し、記録類に関してはPC上に保存して全職員が確認できるようにしている。毎日の連絡会や定例の打合せで子どもや保護者状況の変化を把握し、第2週の打合せをOJTの機会として子ども対応などの意見交換や情報共有・検討をしている。			

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>個人情報保護を確実に運用し、子どもの羞恥心に配慮して支援している</p> <p>行政の個人情報保護条例に則り、保護者同士の連絡や保険などの外部会社への情報提供や写真の掲示や掲載などについては必ず同意を得ている。子どもを呼ぶ時は「さん」「くん」をつけ、子どものプライバシーに関わる内容は皆の前では話題にせず、事務室での職員の会話にも気をつけている。着替えの場所は男女に配慮し、職員は不必要な身体接触をしないなどスキンシップについて確認している。誕生日にはネームタグを手作りしたくつ袋をプレゼントしている。想定外の行動には個別に対応し、体調がすぐれない時や排泄介助などは同性職員が対応している。</p> <p>子どもの気持ちの受けとめ方に関して職員全体のスキル向上を図っていく方針である</p> <p>あそびの内容や外あそびの行き先、リクエストおやつやその他要望など、都度子どもの意見や気持ちを聞き取り、職員が決めつけたり誘導したりすることが極力ないよう意識し、職員間で確認しながら援助している。日々子どもや保護者連絡、個人面談などで確認した内容や職員が把握した内容を打合せや毎日の連絡会で必ず共有し職員全員が配慮している。こどもの活動場所には必ず職員を配置し、暴力を見逃さずエスカレートしないよう双方の言い分や気持ちを受けとめ、いじめにつながらないようにしている。当該保護者には伝える内容を精査して対応している。</p> <p>館長は職員が常に笑顔で子どもに接することが出来るよう心の安定に働きかけている</p> <p>館長は職員全員が子どもに対して適切な関わりが出来るよう常に意識している。子どもの気持ちを尊重することを大切に、職員の思わぬ言動で子どもが傷つくことがあることを理解できるよう、その都度助言を行っている。叩かない・暴言を吐かないなどの不適切保育に関しても年4.5回研修を実施している。館長は職員心の安定にも配慮し、それぞれが抱えている仕事の量や配分、時には私的な相談ごとにも寄り添っている。</p>		

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改定の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリ-6の講評

区のマニュアルを共有し、統一した運営を実施している

区共通の学童クラブ運営マニュアルをはじめとする各種手引書やマニュアルを整備し、それに基づいてサービスを提供している。これらのマニュアルには運営、アレルギー対応、防災防犯対応、食品衛生、指導方法など多岐にわたる業務の基本事項や手順が明確に記されている。また、全職員にこれらのマニュアルを周知するため、事務室内に常備している。

サービスが定められた手順に沿っているか定期的に確認し、必要に応じて改定している

業務の一定水準を確保するため、提供しているサービスが定められた基本事項や手順に沿っているかどうかを適宜確認し、必要に応じて手順書やマニュアルの見直しや修正している。施設内独自のマニュアルについては、職員全員が参画し、さまざまな経験を持つ職員の意見を積極的に取り入れることで、内容の向上を図っている。改定があった場合には、職員打ち合わせ等を通じて全員に周知し、業務の透明性と一貫性を確保している。また、日常的に手引書を活用し、わからないことがあった際にすぐ確認できるように、ファイリングしている。

区の方針にもとづきサービス内容を見直し、意見を反映している

提供するサービスの基本事項や手順については、港区の方針にもとづき、子ども若者支援課を中心とした児童館長会で年度ごとに見直しを行っている。見直しの際には、職員や子ども、保護者からの意見や要望を反映することを重視している。また、区の方針により、お弁当配送システムの導入や非常勤職員の勤務体制の改善を行っている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 28/28	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している	評点(0000)	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
評価項目1の講評			
<p>自分の周りの様々な人の存在、環境に興味や関心が持てるようにしている</p> <p>学童クラブ担当者からの情報やあそびの中での姿など、多角的な観察と情報共有を密に行いながら子どもに対応している。各部屋には必ず職員を配置して子どもの居場所を確認し、それぞれの子どもの背景や個性の違い、互いを尊重することなどを意識しながら接している。現在在籍している子どもは公立小学校2校、私立小学校5校から通っている。様々な環境を通して学校以外での友だちづくりなど交流が図られている</p> <p>一人ひとりの子どもを尊重しながら、集団の中で子ども同士のトラブル回避に努めている</p> <p>現在、子ども同士のトラブルが起りやすい状況が見られている。職員配置に配慮しながらトラブル回避に努め、当該児童にとっての最善は何かを常に考えて適切に対応できるようにしている。子ども対応にはどうしても職員の個人差が生じている。館長は、職員一人ひとりが持つ個性や強み・弱みを念頭に置きながら、子ども自身を尊重するという基本的な考えをしっかりと職員全員に根付かせていくためにはどうしたらよいか、引き続き考えていく方針である。</p>			

2 評価項目2

日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○ 非該当

評価項目2の講評

職員は子ども自身が選んで決めた活動内容に取り組めるよう関わっている

現在館内が改修工事のためあそびのスペースに制限が生じているが、一輪車や縄跳び、卓球、トランポリンなどの運動あそび、積み木やカプラ、レゴ、工作、ゲーム、めり絵をしたり、図書室で漫画を愛読する等あそびの場所を工夫している。運動あそびは申し込み表に記名して順番待ちを約束している。ホワイトボードで「冬休みにやりたいこと募集中」を子どもたちに呼びかけ、子どもたちが提案内容をボードに記載している。自身で落ち着ける場所を選んで宿題やワークブックで学習するなど、自分がやろうと決めた活動に取り組める環境が用意されている。

集団生活を通して様々な決まりを守り、生活習慣が身につくよう働きかけている

個人の特性や嗜好を考慮して集団活動に興味を持てるよう働きかけている。月1回「子ども会議」を開催し、行事を中心に活動内容を意見交換している。子どもたちがあそびを楽しみながら、自然に生活習慣が身につくようタイミングや気持ちを重視し、強制的にならないよう行っている。挨拶や手洗いの励行、各部屋の使い方を守り、おやつは複数から選んで配膳と下膳、ゴミの分別、保護者向けの手紙はクリアファイルに入れて確実に渡す、片づけや身支度などの習慣化に働きかけ、その日の予定や自分が何時に帰るのか自身で確認できるよう関わっている。

3 評価項目3

日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当

評価項目3の講評

行事を通して子どもが話し合いながら達成感を味わい多様な体験を通じて成長している

改修工事という状況下でも多様な体験を子どもが選んで参加できるよう工夫している。毎月開催する子ども会議の他、学童クラブ室移転後にどんなことをしたいか、何をして遊びたいかなどアンケートを行っている。4月はじめは「入学・進級おめでとうウイーク」とし、日替わりでプラバンやキラキラ絵などの工作や大画面でDVD鑑賞など楽しんでいる。「あきる野環境学習会」は親子で参加し、水中の昆虫観察や魚釣りで親子が触れ合っている。カプラ大会やバスハイク、風揚げ、お正月あそび週間、お別れ遠足、卒業おめでとう会など施設内外で実施している。

子どもと保護者が一緒に様々な行事に参加出来るよう、保護者の理解と協力を得ている

工作のつどい、ドッジボールグループ、こまの集い、タブレット端末の活用、公園イベントへ参加している。グループ活動やえんにち実行委員に子どもが参加する場合には保護者向けのお知らせを配布している。また、ドッジボール大会の応援に参加したり、地区児童施設交流会では区内の児童館や児童施設の子どもたちがグループ活動を披露し交流する姿を観覧している。改修工事のため従来の児童館行事ができない中、マイナスの影響が出ないよう、子どもの楽しみや経験、児童館の役割などを意識しながら計画している。

4 評価項目4

子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている

評点(〇〇〇)・非該当1

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
○あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	●非該当

評価項目4の講評

毎日継続して通って来られるよう「おかえりなさい」と温かい声かけで迎え入れている

職員は来所して来る子どもたちに「おかえりなさい」と声をかけて迎え入れている。子どもの表情に目を向けて、いつもと違う様子が見られた場合には家庭や自宅で何かあったのかなるべく自然に話を聞くようにし、必要に応じて学校に連絡を入れて状況を確認する場合もある。不登校や学童クラブを欠席がちなど家庭から相談があった場合は、子どもや保護者の気持ちに寄り添い、事情を丁寧に聞き取りながら対応している。

子どもがその日の予定を知り、見通しを持って活動出来るよう働きかけている

その日の活動予定、連絡内容、帰りの時間・方法などをホワイトボードで示して子どもが自身で確認し、計画的に過ごすことが出来るようにしている。併せて、館内放送も活用して活動の区切りやおやつの時間など伝えている。室内・屋外あそび、おやつ、自主的な学習などおおまかに時間を区切り、過ごし方が簡潔で分かりやすく共通理解につなげている。子どもの気持ちを尊重することを大切に、子どもとの信頼関係が適切な援助や毎日の楽しい学童クラブを実現させている。

5 評価項目5

子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○ 非該当

評価項目5の講評

子どもの生活の連続性に配慮して連携を図り、必要時に情報共有出来る体制を整えている

子どもが通っている小学校との連携を意識している。情報交換会を密に行い、気になる子どもの事例について情報を共有し対応方法を検討している。子どもの状況に関して確認したい事例が生じた場合は速やかに連絡を入れ、例えば学童クラブ内でのトラブルや背景などを学校に伝えて共有し、関わりの方角性を共有している。併せて、PTA行事への参加など、教員や保護者も含めて「顔の見える関係」を意識している。

子どもの声や不安、葛藤などの気持ちに寄り添えるよう「気づき」を大切にしている

館長はいじめ・不登校対策委員会にも出席し情報共有している。不登校に関しては、学校の担当者と連携して適切に対応する体制を整えている。学童クラブでも情報を把握し、学童クラブに通い続けられるのかそれも難しいのかあくまでも子どもの気持ちに寄り添い対応している。配慮が必要な子どもは主に子ども家庭支援センターと協力体制をとり、面談の設定やケース会議への参加など連携を図っている。館長は、今後児童館の再開に向けて、中学校との連携も密に行いたいと考えている。

6 評価項目6

子どもがおやつを楽しめるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○ 非該当

評価項目6の講評

おやつはそれぞれのタイミングで分量や種類を選んで食べられるようにしている

おやつは子どもの来所時間に合わせて決められた場所に用意している。数種類の菓子やフルーツ、時には職員の手作りおやつを用意して子どもたちが自分で分量を選んで食べられるようにしている。強制的な一斉提供ではなく、学年ごとにあそびのタイミングで食べられるよう声をかけている。また、机の配置をおやつとその他あそびや学習に分けるなど配慮している。誕生会の日には子どものリクエストに応じた内容にしている。職員は、子どもが早く遊びたくて急いで食べたり、配膳時のトラブルが起きないように見守っている。

保護者と連携しながら子どもの安心な食を支えている

子どもの食物アレルギーに関しては入会時に保護者からの申し出で一覧表を作成して把握している。現在6名の子どもに配慮が必要になっているが、おやつは食材を吟味し、更に提供時には色別のトレーを使用して誤食を回避している。アレルギーに関しては保護者に定期的な報告をお願いしている。学校給食が無い日のお弁当に関しては席に配慮し、他児との交換をしないなど全体的なルールとして約束をしている。食物アレルギー対応マニュアルを用意して緊急時の対応に備えている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当

評価項目7の講評

子ども自身が健康や怪我などの危険を察知し、生活を通して安全や清潔習慣を学んでいる  
 子どもたちには1年を通して手洗いうがいなどの大切さを伝え、来所時やおやつ・食事前、トイレ後の手洗いを徹底している。感染症が流行する季節にはうがいを励行し、マスクの着用を勧めるなど自分の健康を意識出来るよう関わっている。戸外に出かける時には交通安全や公園での遊具の使い方などを子どもたちと約束し、事故や怪我につながらないようにしている。定期的に避難訓練を実施している。現在医療的ケアが必要な子どもはいないが、入会希望がある時には行政や専門機関などと連携を図る体制を用意している。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの様子や発達の状態について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目8の講評

利用曜日・時間変更に対応し、弁当注文など家庭の状況に寄り添って支援している  
 児童票や個人面談、日々のコミュニケーションを密に行い、個々に配慮した支援を実施している。入会時に利用日や利用時間を決めていく。家庭状況に応じた時間変更や土曜日利用、午後からの来所などにも応じている。土曜日や三期休業中では各自お弁当持参をお願いしている。弁当の専門業者のサイトから希望に応じて注文でき、直接学童クラブで受け取ることが出来るシステムを用意して保護者の利便性に配慮している。

保護者同士の交流や個人面談、個別相談などを通し信頼関係を深める機会を提供している  
 年2回保護者会を開催し、サイコロトークなど保護者が気軽に懇談できる機会を作っている。保護者とは日常のコミュニケーションを大切に、不安や悩みを早いうちに解決できるようにしている。保護者からの相談事には随時対応し、電話や面談、子ども見守りシステムを活用し、子どもの様子など保護者が求めている内容に応えている。日常的に連絡メモや引き継ぎノートを活用して保護者に対して確実に連絡出来るようにしている。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 学童クラブの行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

子どもが多様な体験や交流が出来るよう日頃から地域とのつながりを大切にしている

地域の要望で設置された児童館ということもあり、地域とは密接な関係を作ってきた歴史がある。年7,8回の様々な地域行事に協力という形で打合せから参加し、係分担や児童館のコーナーを出すなど、地域の一員としての役割を担っている。大規模改修工事中の現在、館外活動を中心に、毎日近隣公園利用や近隣学童クラブでのドッジボール合同練習、地域4施設交流会に参加している。地域ふれあい運動会、ころころ市、近隣小学校PTA夏祭り、地域の炭焼きと焼き芋、警察署、消防署、リサイクル本の寄贈、いきいき交流会など様々な状況で関わっている。

地域と共に子どもの体験の幅が広がるよう、様々な機会を提供している

地域懇談会が年2回開催され館長が参加している。行政、町会長や地域団体、民生委員、幼保小中、警察署、消防署などが、それぞれの活動予定や内容を伝達、周知し、互いに協力を約束している。学童クラブのお祭りや読み聞かせ、再開した子育て事業に地域の子育て家庭を含む地域の人たちの参加を誘っている。大学生のインターンシップ制度に協力している。子どもたちが学童クラブ以外の地域の人々と関わることが出来るような機会を提供している。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル①	子どもの主体性を大切に育成支援を行っている	
内容①	子どもの主体性を軸として育成支援を行っていくためには、日常生活の中で「自分で選び、自分で決める」経験を積み重ねていくことが不可欠である。すなわち、指示を待つのではなく、自らの興味・関心を起点に考え、行動できるようにアプローチしていくことが大切である。当事業所では、子どもの意見や気持ちを聞き取り、大人の決めつけや誘導がないように意識して援助している。遊びの内容や外遊びの行き先、クエストおやつなどの希望の聞き取り、トラブルの際の理由や背景の理解とそれを踏まえた対応など、子どもの思いを尊重して育成に当たっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	地域との関わりを大切に事業運営に取り組んでいる	
内容②	地域の強い要望を受けて設置された事業所として、開設以来、地域とは密接な関係を築いてきた。そのような中で、地域の公園の緑化活動の協力やイベントへの参加などのほか、町会合同運動会、PTAまつり、地域団体行事などにも、事業所活動の一環として担当職員を配置して積極的に取り組んでいる。年に7～8回実施される地域行事に協力という形で打ち合わせから参加し、係分担や児童館のコーナーの運営に協力している。地域の一員としての関わりを意識して積極的に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
タイトル③	職員の関係性が良く連携を図りやすい職場である	
内容③	職員間の良好な関係性や円滑な連携を実現している。大規模改修工事という環境下でも職員全員で話し合いを積み重ね、子どもたちにこれまで通りの育成支援を実施できるように取り組んでいる。職員の関係性が良い一例として、事業を推進していく過程において、一部の職員に意見を求めるのではなく、職員全員で方向性を共有し、意見交換をしながらみんなで決定するという慣習を確立していることが挙げられる。職員一人ひとりの業務の見える化を進めていることも、相互の協力や連携を容易にしている要因の一つである。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの意見を尊重した生活や遊びを通して生活習慣が身につくよう働きかけている
	内容	活動内容やリクエストおやつ、その他要望など子どもの意見や気持ちを聞き取りながら、大人が決めつけたり誘導することがないよう意識して関わっている。月1回「子ども会議」を開催し、行事を中心に活動内容に関して意見交換している。館内ではあそびに応じた場所を工夫し、学習スペースも確保している。また子どもたちがあそびを楽しみながら生活習慣が身につくよう、挨拶や手洗いの励行、各部屋の使い方、遊具・玩具は順番、おやつは複数から選び配膳と下膳、ゴミの分別、保護者への手紙はファイルに入れる、片づけや身支度などに働きかけている。
2	タイトル	自ら意識できるよう職員主体で作成した行動指針を支援に活かしている
	内容	職員全員が子どもに対して適切な関わりができるよう常に意識している。職員の思わぬ言動が子どもを傷つける可能性を自覚し、不適切な関わりを芽を摘み、子どもの気持ちを尊重していくことができるよう、研修を通して学んでいる。また、職員アンケートにより「児童施設における適切ではない関わり方の検証」を行っている。他者との比較、寄り添わない、先入観、強要、脅迫、強い口調、罰を与える、家庭環境の無理解、性差など、職員の様々な気づきや意見を職員の行動指針としてまとめ、子どもへの適切な支援に繋げている。
3	タイトル	大規模改修工事の環境下でも安全で安心できる育成に努めている
	内容	現在大規模改修工事が行われている環境下で、育成支援を継続している。故に、利用の制限や活動場所の縮小や移設を余儀なくされている。こうした制約のある環境においても、職員は子どもたちが楽しく充実した生活ができるように遊び方や過ごし方を工夫して育成支援に取り組んでいる。また、近隣の施設の協力も得ながら、遊び場の確保に努め、改修工事前の育成支援の水準に少しでも近づけるように、職員同士で話し合いを積み重ね、安全で安心できる育成に努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	大規模改修工事終了後の新たな環境下での事業再開に向けて、取り組みを着実に進めていく
	内容	大規模改修工事は令和8年6月末で完了する予定で、同年7月から新たな環境下での事業再開を見込んでいる。工事期間中は学童クラブの環境が目まぐるしく変化してきた。再開に向けては、利用人数の変化や、それに伴う環境整備等、事業の見直しも含めて検討が必要である。具体的には、利用登録や各部屋の再確認やマニュアルの整備、他の施設で開始している週末施設開放や直接一般来館児童へのおやつ提供など、様々な点において検討と準備を必要としている。事業の円滑な再開に向けて、今後も着実に取り組んでいくことを課題としている。
2	タイトル	配慮が必要な子どもの支援に関して、職員全員が個々の育ちを確認しながら適切な支援を提供できるようにしていく
	内容	子どもの笑顔を大切に心地よい居場所作りを目指している。子どもや保護者の状況を把握し、集団生活の中で個を発揮しながら他者との良好な関係性構築を支援している。配慮が必要な子どもに対しては年2回の巡回指導や保護者、卒園した園、学校と連携を図り、個々に応じた必要な支援を提供している。今後は個々の支援に応じた個別計画を作成するなど、子どもの育ちを確認しながら提供する支援を共有し、職員の統一的な対応につなげていくことを課題としている。
3	タイトル	子どもへの対応力向上のために職員の資質向上に取り組んでいく
	内容	事業所は子どもの気持ちや背景を理解し、受け止めながらの子どもへの対応を大事に考えている。子どもの特性や価値観は様々であり、職員の幅広く柔軟な対応が求められている。職員の子どもの対応力を向上させていくためには、「個人のスキル磨き」と「チームで支え合う環境づくり」の両輪が不可欠である。前者には職員研修やOJTの工夫を図ること、後者にはこれまでの取り組みをさらに充実させていくことが、それぞれ大切である。引き続き、様々な工夫により子どもへの対応力向上を図っていくことを課題としている。